

平成 28 年三重県議会定例会

サミットを契機とした
地域の総合力向上調査特別委員会

中間報告案

平成 28 年 9 月

サミットを契機とした地域の総合力向上調査特別委員会における調査の経過について、ご報告申し上げます。

【Ⅰ 委員会の取組経過】

伊勢志摩サミットが無事に、そして成功裡に閉幕してから、間もなく4ヶ月になります。

本委員会では、サミットのレガシーを次世代に繋げ、伊勢志摩・三重県の地に何を育み、何を残すのかについて、複数回にわたる委員間討議を重ねてきました。

これまでの委員会における調査結果を踏まえ、県当局に対し、ポストサミットに係る意見を申し上げます。

【Ⅱ ポストサミットに係る意見】

1点目は、知名度等の向上を生かした、人と事業を呼び込む取組についてです。

サミット開催で創出されたチャンスを継続したビジネス等に発展させるためには、企業や地域が主体的に動きやすい環境が必要になります。

県当局におかれては、そのための仕組みや仕掛けを整備するとともに、サミットで得られた効果が県内全域に波及していくための役割を果たされることを要望します。

2点目は、サミットそのものの成果の発展についてです。

グローバル化が進展し、価値観が多様化する現代にあって、地球規模の諸課題を解決していくためには、誰しもを受け入れる寛容さ、変動する時代に対応する瑞々しい感性が求められます。

それらが息づいている伊勢志摩・三重県から、G7伊勢志摩首脳宣言が発せられたことの意味は、決して小さいものではありません。

県当局におかれては、今回のサミットの成果を基に女性活躍や環境問題、平和な世界の追及など国際的課題の解決に向けた取組をさらに加速化されるとともに、その成果を導き出した伊勢志摩・三重県の地から日本人の高い精神性を国内外に発信し続けることを要望します。

3点目は、次世代への継承についてです。

“桑名ジュニア・コミュニケ” をとりまとめたジュニアサミットの参加者、ボランティアとして活躍した高校生、国際理解授業により世界を感じた小中学生、三重県の若者・子どもは世界との交流により、大いに磨かれました。

県当局におかれては、引き続き、若者・子どもに多様な文化に触れる機会を提供し、郷土に誇りを持ち、グローバルに活躍できる人材の育成にさらに取り組まれることを要望します。

【Ⅲ 結語】

以上申し述べましたが、三重県にとっては“ポストサミット”こそが地域の総合力が試される真の機会となります。

県当局におかれては、ポストサミット期間における到達点やそのための取組を明確に位置付け、部局を超えた積極的かつ効果的な取組を推進されるとともに、本委員会の議論も踏まえ、次年度の三重県経営方針の策定等に取り組まれることを要望し、中間報告といたします。